

市民団体の創立から、これまでに至る歩み

2004年（平成16年）12月、政治・宗教・思想等の何のバックも持たない一市民団体として「江戸城再建を目指す会（後のNPO法人）」を創立しました。創立総会は、観光業界、都市計画、経営コンサルタント、会社役員等、市民60数名の参加により、理事長に小竹直隆を選任しました。

江戸城再建を目指す会 設立趣意書

「近年、世界各国、各都市は観光立国と魅力ある国づくりに向けて熾烈な競争を繰り広げているが、その中であって東京は国際都市として未だ確固たる地歩を築いているとは言い難い。

その要因の一つは、日本の首都でありながら日本らしさを体現する傑出した歴史文化的遺産が存在しない点にある。かつての都、江戸は世界で最も魅力的なまちの一つと謳われていた。

もし、ここに1657年の明暦の大火により失われた天守や本丸御殿を始め、江戸城の遺構が再建されれば、それは世界に伍して発展する文化観光、国際交流都市東京の形成に寄与するだけでなく、21世紀における日本再生の新しいシンボルにもなり得る、と確信する。」

このような観点から、私たちは再建を具体化するための各種の調査、研究を進めると共に、広く世論を喚起するための様々な活動を展開すべく、市民団体「江戸城再建を目指す会」を立ち上げる。

平成16年12月 江戸城再建を目指す会
理事長小竹直隆



（皇居二重橋を撮影）

2006年（平成18年）NPO法人を設立（東京都認証）

2011年（平成23年）：認定NPO法人の「認定資格」取得

2013年（平成25年、平成26年）：

認定NPO法人総会決議：新事業主体設立に向けた事業検証を開始（第三者機関に委託）
皇居東御苑での天守再建はNPO法人では不可能に近いと結論に達した。

2015年（平成27年）：

認定NPO法人総会決議）皇居東御苑での再建事業は公益財団法人を目指す。

2016年（平成28年）3月認定NPO法人の総会決議：

NPO法人12年の集大成としてより専門的な調査研究を進める為出来るだけ早い段階で一般財団法人を設立し公益法人を目指すことを決議した。同年5月「江戸城天守復元調査研究報告書の完成」検討会を開催し、11月「天守再建と歴史文化ランドデザイン基本構想」策定した。

2017年（平成29年）：認定NPO法人の総会決議

一般財団法人の設立報告並びに「江戸城天守復元調査研究報告書の完成」、及び「天守再建と歴史文化ランドデザイン基本構想」を提言

2017年（平成29年1月）：

一般財団法人「江戸城天守再建・歴史文化まちづくりルネッサンスの会」を設立

特別史跡江戸城跡における天守再建等本格的な学術調査研究を進める為、事業と運動の共創による一体的発展を目指して、前述のNPO法人理事長小竹直隆を始めとするNPO法人役員等により清々粛々として活動を開始した。

一方、この間、世界の首都は、歴史と伝統文化による国際間競争の激化時代を迎えて、インバウンドの急増や世界遺産登録等のブーム、国内においては、2016年熊本大地震により堅牢と云われた熊本城の天守台の石垣が崩壊し内外に衝撃を与えた。

2018年文化財保護法等の改定をはじめとする関連法等の改正が行われた。また、国連は持続可能な開発目標（SDGs）に向けて観光と文化の貢献を強化する等、文化観光立国を取り巻く内外の環境は、著しく変化を続けて現在に至っている。

以上の観点から、新たな事業構想、即ち、特別史跡における天守再建は極めて難題が多く、学識者を含めた広範囲な合意形成は困難であるとの認識から「本丸御殿や城門等江戸城の全体整備構想」を視野に入れた本格的な学術調査研究が必須であることの認識を深めた。

2017年（平成29年10月）「江戸東京歴史文化ルネッサンスビジョン5カ年基本計画（案）」を策定した。その内容は天守単体の再建から江戸城の全体整備構想の策定並びに江戸東京の歴史文化まちづくりへと転回を図ったものである。

2018年（平成31年7月）には「江戸東京歴史文化ルネッサンス5カ年基本計画（案）」を策定、11月には本格的な学術・調査研究を開始すると共に準備会議を設置した。

2019年（平成31年3月）：

近未来の世界遺産並びにSDGs持続可能な観光文化の視点から「歴史風致維持向上のための法律」による江戸城全体整備構想「江戸東京歴史文化ルネッサンス5カ年基本計画（案）」を検証すると同時に、「事業構想」を発表した。

2019年（令和元年5月）：理事長特別メッセージを発表

[\(https://zaidan-edomo.or.jp/\)](https://zaidan-edomo.or.jp/)

「特別史跡・江戸城跡における天守や本丸御殿等の歴史建造物の復元のあり方について」所見を登

表した。(天守復元は難題が多く再建は極めて不可能に近い)

2020年(令和2年7月)「2020年 今日的意義の検証」を策定

2020年(令和2年)財団設立3周年記念事業(<https://zaidan-edojo.or.jp/>)

3月:江戸東京歴史文化ルネッサンス基本計画調査研究委員会・調査研究委員会は、第一線の気鋭の研究者に加えて、日本イコモス国内委員会並びに文化財保存計画協会からアドバイザーを迎えて開催しました。同年10月2年間にわたる基礎調査は終了した。

同年、10月上記メンバーにより、シンポジウム&パネルディスカッションを共催した。

共催者・日本イコモス国内委員会(国連教育科学文化機関・ユネスコの諮問機関で世界遺産登録のモニタリング等の活動を行っている。)(<https://icomosjapan.org/>)

同年12月:パンデミックコロナ禍の厳しい社会経済環境の下、次の方針を理事会決定した。本丸御殿など江戸城全体整備構想の策定の方針は堅持するものの一旦、留保し、人・モノ・資金の体制が整い次第、策定活動を開始する。一方、江戸城全体整備構想策定活動の表裏一体となるテーマとして、江戸東京歴史文化資源を活かした観光まちづくり(プラットフォーム)の形成に向けた、取り組みを推進する。

2021年(令和3年5月)

「江戸東京歴史文化資源等・プラットフォーム」をホームページに新設した。

財団設立3周年記念行事江戸東京歴史文化ルネッサンス調査研究委員会の成果である600余りの歴史文化資源から歴史建造物等を順次公開していく、と同時に、プラットフォームの基盤整備を推進する。

以上